

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	総合科目	科目 コード	1847538	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 環境と社会 ('15) = (R)

英文名 = [Environment and Society ('15)]

〔主任講師 (現職名) : 植田 和弘 (京都大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 大塚 直 (早稲田大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 岡田 光正 (放送大学教授) 】【

講義概要

環境問題の歴史的な流れを概観し、その変遷の中でどのような解決の努力が払われてきたか解説する。環境問題を解決するというのとはどういうことか、環境というものの価値をどのように評価するのか、そこにおいて経済学はどのような役割を果たすのか、そして法はどのような使命を有しているのかを考える。わが国は、そして世界は、どのような努力をしているのかを概観し、持続可能な社会の実現に向けた課題と現在の取り組みについて解説する。

授業の目標

人間活動が現在直面している温暖化の問題など、将来ますます深刻化していく地球環境の変化は、人間活動に起因するものであり、その結果が生態系の劣化や人間生存の危機をもたらすという深刻な事態に至ることが危惧されている。このようなリスクを解決し、真に持続可能な人間社会を実現するための諸々の考え方を身に付け、現在、社会的にどのような手法がとられているのか、国際的な対応はどのようになされているのかなどの概要を理解する。

履修上の留意点

環境問題の解決に向けた技術的な取り組みの詳細については、他の講義に譲り、本講義においては社会科学的な観点からの環境問題への取り組みを理解してもらうことを主眼とする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	環境問題とは何か	環境とはなにかを考え、環境問題に対する先駆的考え方の例としてレイチェル・カーソンやケネス・ボールディングなどを紹介し、これらの考え方と現在の主要課題となっている「持続可能性」の関連を理解する。環境問題の基本が、有限な地球における人間活動の拡大と質的变化に起因することを理解する。 【キーワード】 エンバイロメントとエコロジー、人間活動の拡大、宇宙船地球号の経済	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
2	環境問題の歴史－公害問題、地域環境問題	人間活動の展開とともに生じてきた種々の環境問題の変遷に関し、初期の公害問題の例として足尾鉍毒事件、イタイタイ病、水俣病、地域環境問題の例として水域の富栄養化などを概観し、環境問題の影響が人間の健康、生活環境に及ぶものであることを理解する。 【キーワード】 産業公害、地域環境問題、水俣病、足尾鉍毒事件、富栄養化	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
3	環境問題の歴史－地球環境問題	人間活動の影響が地球規模に及ぶこととなった。地球環境問題の典型的な例として、地球温暖化問題などについて、問題の流れを概観する。 【キーワード】 地球環境問題、地球温暖化、二酸化炭素、持続可能性	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	環境問題と経済学	<p>経済学の目的と内容の説明から始まり、環境問題が経済学においてどのように取り扱われてきたか、その主要な源流・学説と理論的枠組みを解説する。また市場経済制度が環境制御に失敗する原因を考察し、外部不経済の内部化論の意義と限界を明らかにする。環境経済学の展開過程と課題を説明する。</p> <p>【キーワード】 環境経済学、外部不経済、資源環境制約、市場の失敗</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
5	環境の経済価値と評価	<p>環境は価格のつかない価値物である。環境の価値とは何か。環境の価値は経済的にどのように評価されるか、環境の評価に関する考え方、具体的な評価の例を紹介し、環境評価における課題について考える。さらに、環境影響評価の意義と課題を確認する。</p> <p>【キーワード】 環境と経済、環境の経済価値、環境評価、環境影響評価</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
6	環境政策の目的と手段	<p>環境政策の生成と発展についてまず概説する。環境政策の目的を達成するための政策目標と政策手段はいかにあるべきか。目標設定の考え方について解説するとともに、多様な環境政策手段を分類して、各々の政策手段の機能と特徴を明確にする。</p> <p>【キーワード】 環境政策、政策目標、政策手段</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
7	気候変動問題と炭素経済	<p>気候変動問題の深刻化から明らかになるように、低炭素社会への移行が求められている。温暖化を緩和する方策としての二酸化炭素排出削減を推進するための炭素経済はどのように考えられているか、地球温暖化防止の難しさの原因はどこにあるかを確認する。さらに、スターン・レビューに依拠しつつ炭素経済を解説する。</p> <p>【キーワード】 炭素経済、低炭素社会、環境経済戦略、スターン・レビュー</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
8	「環境と経済の両立」から持続可能な発展へ	<p>環境保全と経済のトレードオフ関係の克服を目指す議論を紹介し、経済発展の方向を明らかにする。「環境と開発に関する世界委員会」が提示した持続可能な発展の理念を具体化する方向性について、P.ダスグプタの理論を紹介しつつ、資本資産と制度の役割について考える。</p> <p>【キーワード】 持続可能な発展、ダスグプタ理論、資本資産、制度</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
9	環境税	<p>環境税の基礎理論をピグー及びボーモル＝オーツの議論によりつつ概説する。環境税は、租税政策手段としての側面と財源調達手段としての側面を併せ持つことを確認する。さらに、エネルギー税との関連について考える。また、地方環境税の現状と課題について解説する。</p> <p>【キーワード】 環境税、ピグー税、ボーモル＝オーツ税、エネルギー税、地方環境</p>	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	環境とエネルギーの 経済学	福島原発事故を受けてエネルギー政策の見直しがすすんでいる。再生可能エネルギー開発、電力システム改革の方向性や発電コストの評価を基礎にしつつ、エネルギー政策と気候変動政策の統合のあり方を考える。 【キーワード】 再生可能エネルギー、原発、発電コスト、電力システム改革	植田 和弘 (京都大学教授)	植田 和弘 (京都大学教授)
11	環境における法規制 の役割	法とはなにか、環境問題対応における法の役割は何かを考察する。社会における公平性確保のため法はどのようなものであるべきか、環境問題に対する法的対応はどのような変遷を遂げてきたか、法規制と経済的誘導策の役割の分担は如何にあるべきか、法規制の果たす技術革新への機能などについて説明を行う。 【キーワード】 法規制、公平性、財産権、不確実性、比例原則、マスキー法	大塚 直 (早稲田大学 教授)	大塚 直 (早稲田大学 教授)
12	環境基本法と環境法 の理念・原則	環境基本法の成り立ち、環境基本計画との関係に関する解説を行う。環境権とは何か、環境法の理念・原則としてはどのようなものがあるかについて考察する。また、環境行政における自治体の役割について説明する。 【キーワード】 環境基本法、環境基本計画、環境権、環境法の理念、地方自治体の役割	大塚 直 (早稲田大学 教授)	大塚 直 (早稲田大学 教授)
13	個別環境法の仕組み と環境影響評価法	我が国において、個別の環境法はどのような規制の構造をもっているかについてイメージをつかむとともに、最近改正のなされた環境影響評価法を扱い、その意義を考えてみよう。 【キーワード】 大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、環境影響評価法、自然公園法	大塚 直 (早稲田大学 教授)	大塚 直 (早稲田大学 教授)
14	環境訴訟	環境問題については様々な訴訟が提起され、裁判が下されてきた。その中には国の環境政策に大きな影響を与えたものも少なくない。損害賠償や差止に関する民事訴訟と、行政訴訟について勉強してみよう。 【キーワード】 損害賠償、差止、行政訴訟、過失、因果関係	大塚 直 (早稲田大学 教授)	大塚 直 (早稲田大学 教授)
15	原発規制と放射性物質 による汚染への対処	東日本大震災に伴って生じた福島第1原発事故は、脱(減)原発への世論を巻き起こすとともに、原発規制に関する根本的な改革を迫ることになった。原発規制や放射性物質による汚染に対する対処は今や環境法の一分野であることが認識されている。これらについて考えてみよう。 【キーワード】 原子力発電所規制、放射性物質、バックフィット、環境基本法、環境影響評価法	大塚 直 (早稲田大学 教授)	大塚 直 (早稲田大学 教授)